

街へ、暮らしへ、広がる近鉄ネットワーク

証券コード9041



www.kintetsu.jp

2014年3月期 第2四半期決算説明会

2013年11月13日

- I. 2014/3月期 第2四半期決算の概要
- II. 2014/3月期 通期業績予想
- III. 近鉄グループ経営計画 進捗状況



I. 2014/3月期 第2四半期決算の概要



最近のトピックス

- ◆ 13年 6月：駅ナカ売店等をファミリーマートに転換開始
- ◆ 13年 6月：近鉄百貨店「あべのハルカス近鉄本店」タワー館開業
- ◆ 13年 7月：第2回近鉄エリアキャンペーン伊勢志摩「せんぐう旅博」開催
～14年 3月まで
- ◆ 13年 9月：新株式の発行により674億円
(手取金ベース:670億円)を調達
- ◆ 13年 9月：志摩スペイン村ソーラー発電所 発電開始
- ◆ 13年10月：観光列車「つどい」運行開始
- ◆ 13年10月：近鉄百貨店「あべのハルカス近鉄本店」
ウイング館上層階開業
- ◆ 14年 3月：あべのハルカス全館グランドオープン
(予定)

2014 / 3期 第2四半期 業績の概要

(億円、%)	2013 / 3期 第2Q		2014 / 3期 第2Q		前年同期比増減		増減要因	2013 / 5 時点見通
		構成比		構成比	金額	率		
売 上 高	4,501	100.0	5,970	100.0	1,469	32.6	レジャー+1,269、不動産+227	5,920
営 業 利 益	223	5.0	249	4.2	25	11.4	不動産+51、レジャー▲14、運輸▲10	205
経 常 利 益	158	3.5	218	3.7	59	37.8	持分法投資利益+17、支払利息減+8	160
特 別 利 益	66		82		15	23.1	工事負担金等受入額+9	
特 別 損 失	85		99		13	15.8	工事負担金等圧縮額+9、減損損失+6	
四半期純利益	92	2.1	129	2.2	36	39.8		95
持分法投資利益	22		40		17	79.8	大日本土木㈱新規持分法適用	
借 入 金 ・ 社 債	12,922		12,390		▲532			

(注)連結子会社数 59社(前期末比1社増加) 持分法適用会社数 6社(前期末比1社増加)

2014/3期 第2四半期 貸借対照表の主な増減

(億円、%)	2013/3期		2014/3期 第2Q		比較 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	3,491	18.1	3,855	19.5	364
固定資産	15,742	81.7	15,906	80.4	164
うち事業用資産	14,071		14,145		74
資産合計	19,258	100.0	19,785	100.0	527
流動負債	6,516	33.9	6,676	33.8	160
固定負債	10,577	54.9	10,177	51.4	▲ 399
負債合計	17,093	88.8	16,854	85.2	▲ 238
うち借入金・社債	12,767		12,390		▲ 377
純資産合計	2,164	11.2	2,930	14.8	765
うち利益剰余金	▲ 36		5		42
負債、純資産合計	19,258	100.0	19,785	100.0	527

《主な増減要因》

資産

- ・現金及び預金 +429
- ・投資有価証券 +98
- ・事業用固定資産 +74
(うち、設備投資 +291、減価償却▲250)
- ・その他の流動資産 +45
- ・販売土地建物 ▲116

負債

- ・借入金・社債 ▲377
- ・その他の流動負債 +76

純資産

- ・株式発行 +674
- ・利益剰余金 +42
- ・その他の包括利益累計額 +51

2014/3期 第2四半期 キャッシュフローの状況

(億円)	2013/3期 第2Q	2014/3期 第2Q	比較増減額
営業活動によるキャッシュフロー	333	554	220
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 311	▲ 289	21
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 52	163	216
現金及び現金同等物の期末残高	208	898	690
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	22	264	241
財務活動のうち借入金・社債フロー計	3	▲ 402	▲ 405

《キャッシュフローの当第2四半期の状況と対前年同期比増減》

営業活動

- ◆ 税金等調整前四半期純利益の増や、たな卸資産減少額の増、前受金増加額の増等により、前年同期比220億円増の554億円の収入

投資活動

- ◆ 固定資産の取得による支出の減により、前年同期に比し21億円の支出減である289億円の支出

財務活動

- ◆ 株式発行による収入により、借入金の返済等を進めたものの、支出超過であった前年同期に比し216億円の収入増となる163億円の収入

現金及び現金同等物の期末残高

- ◆ 株式発行等により、前年同期比690億円増の898億円

2014 / 3期 第2四半期 セグメント別実績

(億円、%)	2013 / 3期 第2Q	2014 / 3期 第2Q	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	1,068	1,094	26	2.5
	160 (15.0)	149 (13.7)	▲ 10	▲ 6.6
不 動 産	516	743	227	43.9
	27 (5.3)	79 (10.7)	51	188.2
流 通	1,866	1,850	▲ 16	▲ 0.9
	13 (0.7)	11 (0.6)	▲ 2	▲ 21.1
ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	1,083	2,352	1,269	117.2
	17 (1.6)	2 (0.1)	▲ 14	▲ 84.3
そ の 他	66	68	2	3.7
	2 (3.8)	4 (6.8)	2	83.9
合 計	4,501	5,970	1,469	32.6
	223 (5.0)	249 (4.2)	25	11.4

2014/3期 第2四半期 運輸セグメント実績

(億円)		2013/3期 第2Q	2014/3期 第2Q	前期比増減	率(%)
売	上 高	1,068	1,094	26	2.5
	鉄 軌 道 事 業	774	785	11	1.4
	バ ス 事 業	167	168	0	0.5
	タ ク シ ー 業	55	56	0	1.6
	交 通 広 告 業	39	41	1	4.6
	鉄道施設整備業	119	114	▲ 4	▲ 4.2
	海 運 業	9	9	0	7.3
	レ ン タ カ ー 業	15	15	▲ 0	▲ 0.0
	消 去	▲ 112	▲ 96	16	
営 業 利 益		160	149	▲ 10	▲ 6.6

■ 主な増減要因

鉄軌道部門において、伊勢志摩地域への利用客が好調に推移したため増収となったが、動力費等諸経費が増加したため減益

2014/3期 第2四半期 不動産セグメント実績

(億円)		2013/3期 第2Q	2014/3期 第2Q	前期比増減	率(%)
売 上 高		516	743	227	43.9
	不 動 産 販 売 業	291	465	174	60.1
	不 動 産 賃 貸 業	93	103	10	10.7
	不 動 産 管 理 業	156	204	48	30.9
	消 去	▲ 24	▲ 30	▲ 6	
営 業 利 益		27	79	51	188.2

主な増減要因

不動産販売部門において、マンション販売や宅地分譲等が好調に推移したため増収増益

2014/3期 第2四半期 流通セグメント実績

(億円)		2013/3期 第2Q	2014/3期 第2Q	前期比増減	率(%)
売	上 高	1,866	1,850	▲ 16	▲ 0.9
	百貨店業	1,344	1,325	▲ 19	▲ 1.4
	ストア・飲食業	528	532	4	0.9
	消 去	▲ 5	▲ 7	▲ 1	
営業利益		13	11	▲ 2	▲ 21.1

主な増減要因

百貨店部門において、あべのハルカス近鉄本店タワー館の開業効果はあったものの、不採算店舗の閉鎖等により減収。あべのハルカス近鉄本店タワー館開業に伴う初期費用の増加もあり減益

2014/3期 第2四半期 ホテル・レジャーセグメント実績

(億円)		2013/3期第2Q	2014/3期第2Q	前期比増減	率(%)
売	上 高	1,083	2,352	1,269	117.2
	ホ テ ル 業	222	233	11	5.0
	旅 行 業	797	2,053	1,255	157.5
	映 画 業	15	15	0	4.2
	旅館・レジャー施設業	48	50	2	5.0
	消 去	—	▲ 0	▲ 0	
営 業 損 益		17	2	▲ 14	▲ 84.3

■ 主な増減要因

旅行業においてKNT-CTホールディングス等の新規連結により増収となるが、季節的要因で営業損失を計上したため減益

2014 / 3期 第2四半期 設備投資・減価償却費

(億円)		2013 / 3期 第2Q	2014 / 3期 第2Q	比較増減額
設 備 投 資		276	291	14
	運 輸	80	75	▲ 4
	不 動 産	135	37	▲ 98
	流 通	40	152	111
	ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	12	15	2
減 価 償 却 費		232	250	17
E B I T D A		456	499	43

設備投資の主な増減要因

不動産 : あべのハルカス設備投資額減
 流通 : あべのハルカス近鉄本店タワー館 設備投資額増

Ⅱ． 2014 / 3月期 通期業績予想



2014 / 3期 通期業績予想

(億円、%)	2013 / 3期 実績		2014 / 3期 予想		前期比増減		当初計画 (5 / 10発表)
		構成比		構成比	金額	率	
売上高	9,321	100.0	12,500	100.0	3,178	34.1	12,500
営業利益	474	5.1	510	4.1	35	7.5	510
経常利益	350	3.8	425	3.4	74	21.2	400
当期純利益	200	2.1	240	1.9	39	20.0	230

(億円)		2013 / 3期 実績	2014 / 3期 予想	比較増減額	当初計画 (5 / 10発表)
設備投資	設備投資	602	840	237	790
	運輸	239	240	0	240
	不動産	246	170	▲ 76	170
	流通	68	270	201	220
	ホテル・レジャー	32	140	107	140
減価償却費		472	525	52	530
借入金・社債残高		12,767	12,100	▲ 667	12,800
E B I T D A 倍率		13.5倍	11.7倍		12.3倍

2014/3期 通期 セグメント別予想

(億円、%)	2013/3期 実績	2014/3期 予想	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	2,138	2,175	36	1.7
	296 (13.9)	278 (12.8)	▲ 18	▲ 6.3
不 動 産	1,363	1,565	201	14.8
	81 (6.0)	103 (6.6)	21	26.1
流 通	3,794	3,890	95	2.5
	45 (1.2)	58 (1.5)	12	26.6
ホテル・レジャー	2,098	5,100	3,001	143.1
	39 (1.9)	60 (1.2)	20	52.0
そ の 他	135	135	▲ 0	▲ 0.3
	7 (5.8)	9 (6.7)	1	15.3
合 計	9,321	12,500	3,178	34.1
	474 (5.1)	510 (4.1)	35	7.5

■ 主な増減要因

不動産：住宅地分譲の増加等により増収増益

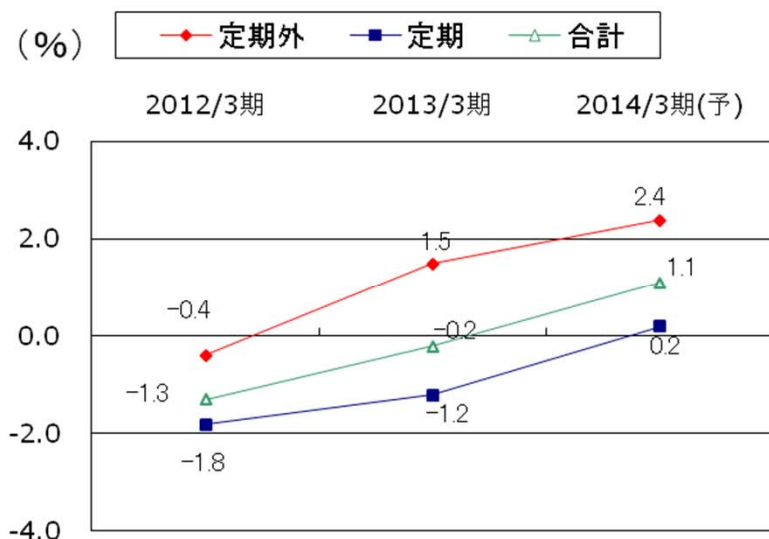
流通：あべのハルカス近鉄本店タワー館の先行開業等により増収増益

ホテル・レジャー：KNT-CTホールディングス等の新規連結により増収増益

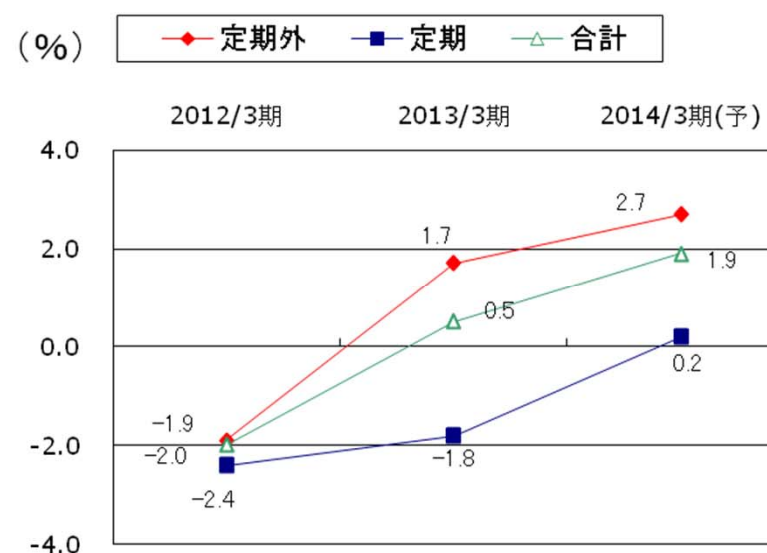
【ご参考】鉄道運輸成績の実績および予想

(近畿日本鉄道単体)		2012/3期		2013/3期		2014/3期			
		実績	前期比	実績	前期比	2Q実績	前年比	通期予想	前期比
旅客人員 (百万人:%)	定期外	223	▲ 0.4	226	1.5	115	2.4	232	2.4
	定期	342	▲ 1.8	338	▲ 1.2	174	▲ 0.9	339	0.2
	計	566	▲ 1.3	565	▲ 0.2	289	0.4	571	1.1
旅客収入 (億円:%)	定期外	957	▲ 1.9	974	1.7	501	3.4	1,001	2.7
	定期	483	▲ 2.4	475	▲ 1.8	241	▲ 0.9	476	0.2
	計	1,441	▲ 2.0	1,449	0.5	743	1.9	1,477	1.9

＜旅客人員 前年比の推移＞



＜旅客収入 前年比の推移＞





Ⅲ. 近鉄グループ経営計画 (2010年度～2014年度) の進捗状況

経営計画の概要① 期間と位置付け

阿部野橋ターミナルビル(あべのハルカス)が完成する2014年までを「基盤強化期」と位置付け、その間に各種プロジェクトを着実に実現すると共に、構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図る。



経営計画の概要② 経営数値目標

あべのハルカス完成までの間、現行の配当水準を安定的に維持するために必要な利益と財務体質の健全性を確保する。

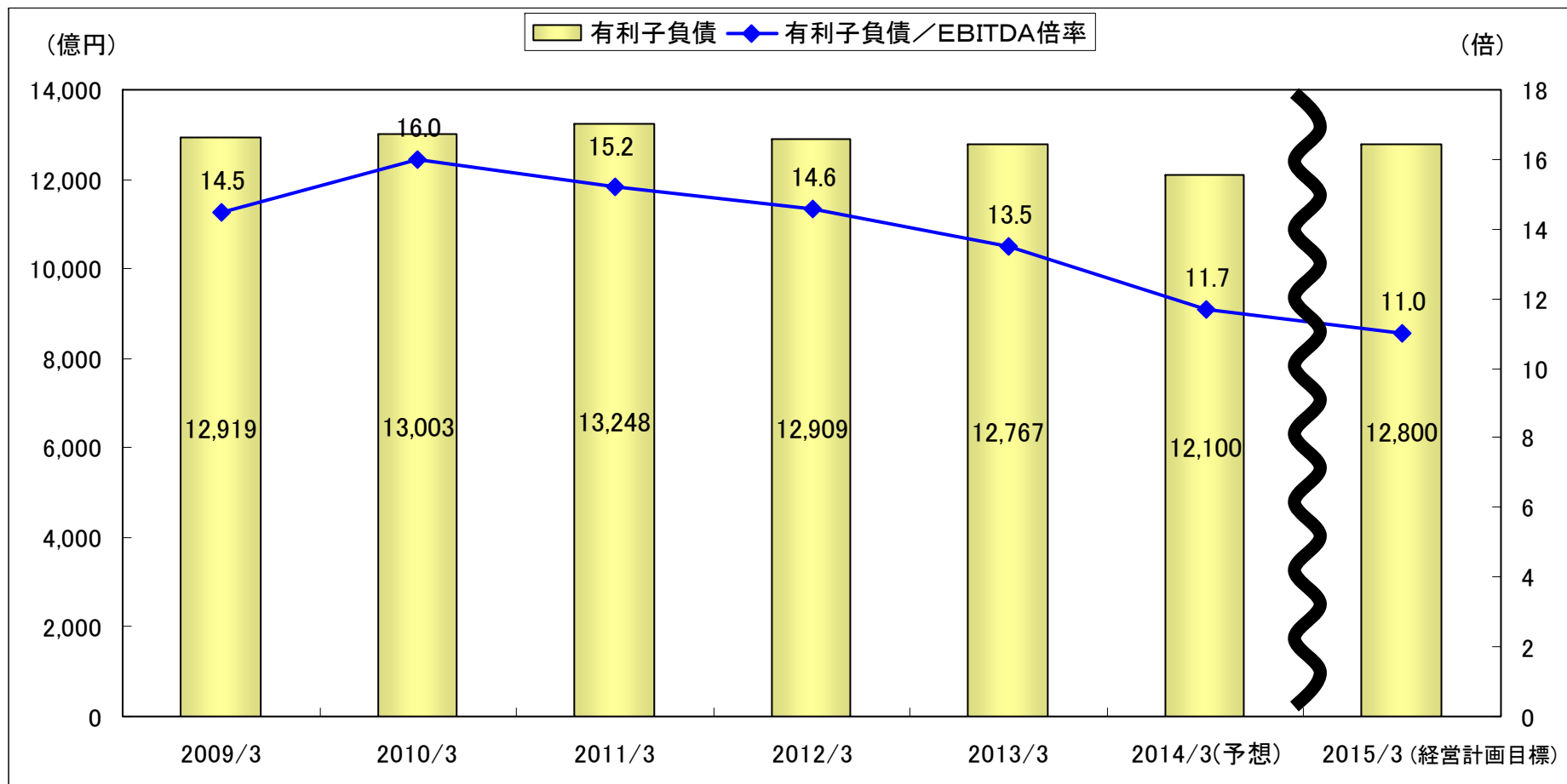
	2011/3 実績	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 予想	2015/3 経営計画目標
連結営業収益	9,600億円	9,427億円	9,321億円	1兆2,500億円	1兆1,000億円
連結営業利益	399億円	402億円	474億円	510億円	600億円
連結当期純利益	143億円	86億円	200億円	240億円	200億円
連結有利子負債	1兆3,248億円	1兆2,909億円	1兆2,767億円	1兆2,100億円	1兆2,800億円
EBITDA倍率	15.2倍	14.6倍	13.5倍	11.7倍	11.0倍

(EBITDA = 営業利益 + 減価償却費)

- 旅行業再編に伴う2015/3への影響(統合効果)は反映していない
- 2015/3経営計画目標は、2010年に策定した経営計画の最終年度数値目標
- 2014/3予想は、公募増資に伴う有利子負債圧縮を考慮している

経営計画の概要③ 有利子負債の削減

キャッシュフローによる有利子負債削減を進めており、経営計画最終年度の2015/3月期には、目標の有利子負債残高1兆2,800億円以下、有利子負債／EBITDA倍率11倍以下の達成に目処。



経営計画の概要④ セグメント別営業利益の推移

運輸セグメントは営業利益を維持し、不動産、流通、ホテル・レジャーセグメントは、あべのハルカスの開業や利益創出力の強化により、営業利益増加を見込む。

運輸

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	288	273	296	278	約300
売上高 営業利益率	13.2%	12.9%	13.9%	12.8%	約14%

鉄道収益は減少するものの、事業構造改革等の実施により、営業利益率は同水準を確保

不動産

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	68	81	81	103	約110
売上高 営業利益率	4.9%	5.9%	6.0%	6.6%	約9%

あべのハルカス効果のほか、マンション販売において高利益率物件へのシフトが進むことにより、セグメント全体の利益率向上

流通

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	36	37	45	58	約105
売上高 営業利益率	0.9%	0.9%	1.2%	1.5%	約2%

あべのハルカス効果のほか、近商ストアにおいて7&iHDとの提携効果により利益率向上

ホテル・レジャー

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	△ 2	△ 1	39	60	約70
売上高 営業利益率	△ 0.1%	△ 0.1%	1.9%	1.2%	約3%

ホテル収益の震災前水準への回復やクラブツーリズムの利益貢献(2014/3-2Qでのれん償却終了)、志摩スペイン村の運営効率化による利益水準安定化

※その他セグメント等で、2014/3営業利益約9億円、2015/3営業利益約15億円

※旅行業再編に伴う2015/3への影響は反映していない

※2015/3(経営計画目標)は、2010年に策定した経営計画最終年度数値目標をベースにセグメントに整理した数値

経営計画の概要⑤ 公募増資の実施

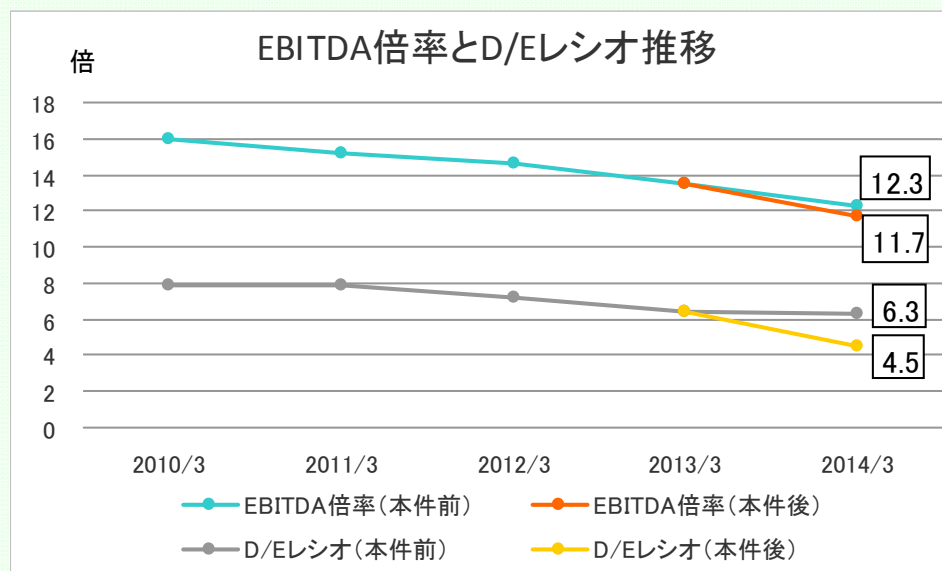
○公募増資の概要(2013年9月)

- ◆発行形態 一般募集およびオーバーアロットメントによる売出し
- ◆発行株式数 195,500,000株
 - 一般募集分 170,000,000株
 - オーバーアロットメントによる売出し分 25,500,000株
- ◆増資後発行済み株式総数 1,906,620,616株
- ◆増資に伴う手取概算額 67,090百万円

○公募増資による資金使途

1	「あべのハルカス」タワー館建設工事資金	20,883百万円
2	長期借入金返済	
	「あべのハルカス」 タワー館建設工事資金	35,830百万円
	2011年実施 近鉄百貨店 第三者割当増資充当金	2,954百万円
	「あべのハルカス」関係 計	59,668百万円
3	車両改造ほか車両関係工事資金	7,422百万円
	合計	67,090百万円

○公募による資金調達により財務基盤を強化



「あべのハルカス」計画の進捗① 全体計画

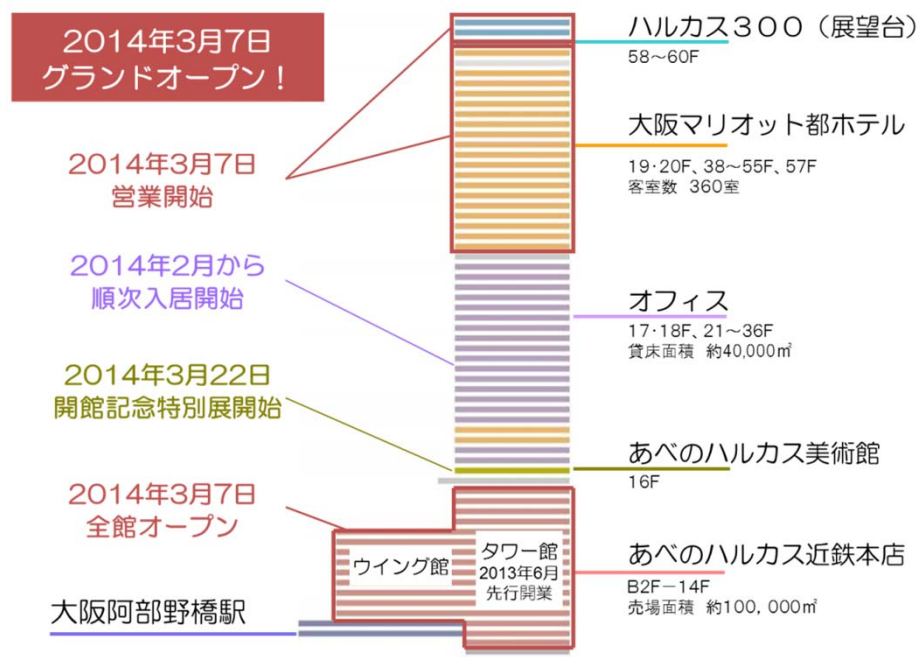
鉄道4社7路線が集中、関空とも直結する「広域集客拠点」であり、
「地域住民の生活拠点」でもある立地特性を活かした複合機能ビル。

＜「あべのハルカス」計画概要＞

◆高さ300m、地上60階 日本一の超高層複合ビル

- ・ 延床面積(既存の建物含む)
約306,000㎡
(地下5階、地上60階)
- ・ 完成予定(グランドオープン)
2014年3月7日
- ・ 想定来館者数(平年度)
13万人／日
(約4,740万人／年)
うち百貨店4,500万人

◆フロア構成



＜阿倍野・天王寺地区の強み＞

①ターミナル乗降 73万人／日
(近鉄、JR、地下鉄、阪堺)

②大阪市内有数の居住地区
教育機関、医療施設、都市公園、
歴史・文化施設が集積



③ 近鉄百貨店
あべのハルカス近鉄本店商圏
⇒商圏人口 620万人

④ 関西国際空港(KIX)の玄関口
⇒LCC専用ターミナルが開業

「あべのハルカス」計画の進捗② 百貨店・ホテル・オフィス等計画

大阪マリオット都ホテル

マリオット・インターナショナルと提携



MARRIOTT

世界的送客ネットワークと
サービスノウハウ



MIYAKO
HOTELS & RESORTS

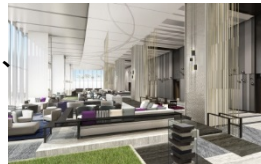
日本のおもてなしの
心やサービス

ダブルブランドによる運営

- ・関西初のマリオットブランド
- ・日本屈指の客室眺望、全客室洗い場付きの浴室
- ・快適な滞在をサポートする、充実した付帯サービス

* 施設概要

- ・客室数 360室(標準客室38㎡)
スーペリア、プレミアム、スイートルーム他
専用ラウンジを備えたクラブフロアを設ける
- ・レストラン・ラウンジ 3施設
- ・ビジネスセンター、トレーニングジム、
中小個室 他



ハルカス300(展望台)

地上約300mの眺望

- ・60階 ガラス張りの
屋内回廊
- ・58階 3層吹抜けの
開放的な屋外広場



百貨店

2013年6月13日 タワー館先行オープン

2014年3月 7日 全館オープン

[タワー館先行開業後の状況]

○滞在時間の拡大

5人のうち1人が2時間以上滞在、開業前の2.5倍に

○顧客層の拡大

8階「kodomoの街」や3階「トレンドコート」で、これまでの中心顧客層とは異なった世代の来店客が増加

○商圈の拡大

足元商圈に加えて、近鉄沿線の奈良県下や南海・JR阪和線沿線の大阪府南部からの来店客が増加

全館オープン後(2014年度)

営業面積 100,000㎡

取扱高※ 1,450億円

※百貨店売上高+専門店取扱高

オフィス

・順調なリーシング活動(入居率約9割)

- ・百貨店、ホテルのほか
貸会議室・カフェテリア、
保育所、メディカルフロア
などオフィスワーカーの利
便性を高める施設を充実

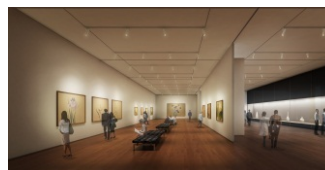


あべのハルカス美術館

都市の文化拠点

多彩な企画展を展開し、
芸術・文化を気軽に楽し
める「都市型美術館」

展示面積 880㎡



「あべのハルカス」 投資額・収支計画

グランドオープン(2014年春)初年度

(単位: 億円)

	近鉄グループ 合 計	近鉄 (ビル・ホテル等) ※1	近鉄百貨店	従前の 公表数値
投資額	1,300	※2 987	313	1,300
収支計画				
取扱高	1,530	※3 80	1,450	1,550 (百貨店 1,500) ※4
売上高	※5 1,270		1,190	
(減価償却費)	(70)			
営業利益	90			80
(EBITDA)	(160)			

※1 近鉄には、ホテル関係(近鉄ホテルシステムズ)を含む

※2 数値は、百貨店投資額を除く全ての投資額

※3 数値は、百貨店から収受する賃料を除く外部売上高

※4 従前は、百貨店の売上高を取扱高ベース(1,500億円)で算出し、近鉄取扱高と連結相殺を考慮のうえ、合算し公表

※5 数値は、百貨店の専門店部分を賃貸収入として計上し、連結相殺を考慮

グループ事業の強化

グループの統括機能を強化するとともに、外部流通企業との提携や旅行事業の再編を実施。

◆流通

- ・2011年9月 近商ストア セブン&アイHDと資本業務提携
近商ストア第三者割当増資をセブン&アイHDが引受
⇒運営力強化による利益成長
- ・2011年10月 近鉄百貨店第三者割当増資の実施
⇒財務体質の強化
- ・2013年2月 近鉄松下百貨店(山口県周南市)閉店
⇒不採算店舗の整理
- ・2013年3月 駅ナカ売店・コンビニ事業についてファミリーマートと業務提携
⇒駅ナカ事業の強化

◆運輸

- ・2011年6月 近鉄技術ホールディングス設立
鉄道技術系グループ会社を統括
⇒経営管理機能強化
業務統合によるコスト削減
- ・2013年4月 近鉄タクシーホールディングス設立
傘下のタクシー会社を一元的に管理
⇒統治体制の強化
競争力の強化

◆レジャー(旅行)

- ・2013年1月 KNT-CTホールディングスへ商号変更し、持株会社体制へ移行
近畿日本ツーリスト(KNT)とクラブツーリズム(CT)を統合

伊勢志摩での増収施策

伊勢神宮式年遷宮を契機とした、グループ総合力発揮による伊勢志摩地域への送客。
デスティネーションとしての伊勢志摩の認知度向上を機会とした持続的誘客への取り組み。

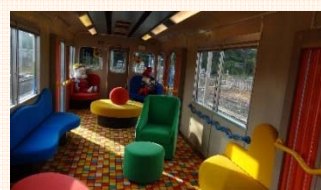
◆乗ること自体が楽しみとなるような「鉄道の旅」の提案

【観光特急「しまかぜ」の運行】



- ・3月21日の運転開始以降、連日ほぼ満席の盛況
(大阪難波・近鉄名古屋～賢島間)
⇒新たな鉄道需要を創造
- ・2014年秋に1編成増備予定
⇒主に京都～賢島間を運行

【観光列車「つどい」の運行】



- ・10月5日運行開始
(伊勢市～賢島間)
- ・「風のあそびば」やイベントスペース、窓向きに設置された座席、車内での地元によるふるまいなどが好評
⇒伊勢神宮参拝のお客様に伊勢志摩を周遊していただく効果

◆伊勢志摩近鉄リゾート現地施設の誘客策

【志摩スペイン村】

- ・ボート周遊型アトラクション「フェリスクルーズ」の導入
- ・「アフタヌーンパスポート」発売
- ・開業20周年事業(2014年)
新アトラクション「トマティーナ」の導入など



【ホテル・旅館】

- ・式年遷宮をテーマとした宿泊プランの造成
- ・伊勢神宮内宮
⇔伊勢志摩近鉄リゾート各ホテル
直行バス「パールシャトル」の運行



【賢島エスパーニャクルーズ】

- ・祝・御遷宮記念クルーズの運行

など

◆グループ旅行会社の送客策

【近畿日本ツーリスト】

- 団体: 参宮団体の送客
- 個人: 参宮をテーマとしたプランの発売



【クラブツーリズム】

- ・大規模集客イベントの開催
- ・専用列車「かぎろひ」を利用したプランの発売



◆誘客施策の告知

【せんぐう旅博

～日本人の旅 伊勢志摩～】

地元自治体と協力した誘客キャンペーンの実施



鉄道事業の強化

安全を前提に、需要減の環境下でも利益を確保できる体制の構築

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
筋肉質な体制づくり	◆運営体制の見直し 鉄軌道部門の従業員数	7,964人	7,761人	7,573人	継続実施 2015年度末約7,250人を目標	
	駅無人化 (概ね1日の乗降3,000人以下の駅を対象)	費用削減効果 約50億円				
	◆需要に応じた輸送力の見直し 輸送の効率化と、特急増発、停車駅追加など利便性向上	無人駅数 32駅	44駅	57駅	94駅(予定) 全294駅中32%	
	◆支線への対応	費用削減効果:約8億円/年 増収効果:約2億円/年		2012年3月 大幅なダイヤ変更	輸送需要に応じて適宜実施	
		2007年度 伊賀鉄道・養老鉄道への分社化	内部・八王子線を公有民営方式※により 鉄道存続させることで基本合意		新体制移行(2015年春頃予定) →赤字(約3億円/年)の解消	
		収支改善効果 約9億円/年	補助金制度活用等による更なる収支改善			
安全の一層の確保、危機管理	鉄道事業設備投資	174億円	181億円	195億円	190億円(予定)	安全関連を中心に 設備投資を継続
	うち、安全関連設備投資	138億円	134億円	151億円	131億円(予定)	
	新型ATS設置	主要路線設置完了★				全線(一部支線を除く) 設置完了★
	プラットフォーム安全対策	非常通報装置の設置 対象161駅設置完了★ (このほか、内方線付き点状ブロック、転落検知装置などの整備)				
	立体交差化工事の推進	奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化 (名古屋線川原町駅付近などでも立体交差化工事推進中)				
	大阪地区総合指令構築					2018年完成予定
	地震・津波対策	BCP(事業継続計画)策定★ 耐震補強、緊急避難誘導標・車両からの避難はしご設置、避難地図・津波情報ラジオ配備など				BCM(事業継続マネジメント)の推進

※公有民営方式：鉄道施設、車両などを沿線自治体が保有し、鉄道事業者がこれらが無償で借り受けて運行する「上下分離」による鉄道運営の方式

さらなる成長のための取り組み① 農業・太陽光発電ビジネスへの参入

農業ビジネスは順調に生産体制を確立。太陽光発電は、スマートシティへの展開も検討。

<農業ビジネス>

◆名称

近鉄ふあーむ花吉野

◆施設概要

施設	完全人工光型 植物工場	農業用ハウス
栽培面積	約210㎡	約5,300㎡
栽培品目	葉物類 (レタス、ベビーリーフ等) 根菜類 (ラディッシュ等)	高糖度トマト
目標	フリルレタス換算 で40万株/年	50トン/年

◆経緯

- H24. 7 施設完成、栽培開始
- 8 ホテル等に植物工場産野菜の出荷開始
- 11 スーパー等に高糖度トマトの出荷開始

◆主な販売先

グループ内(スーパー、百貨店、ホテル等)
グループ外(道の駅等)

◆収支見通し

事業開始3年目で売上高1億円、
4年目で黒字化

◆今後の展開

- 所有地や沿線農地での事業拡張
- 農業関連ビジネスへの新規参入



完全人工光型植物工場の内部の様子



「花吉野からトマト。」のパッケージ

<太陽光発電ビジネス>

◆事業概要

発電所名	発電容量 (※)	発電開始	全体概要
近鉄伊賀ゆめが丘 ソーラー発電所 (三重県伊賀市)	15,500kW	平成26年 12月(予定)	・発電容量 24,400kW ・事業期間 発電開始より20年間 ・年間売上高 880百万円 ・年間営業利益 220百万円 (売上高・営業利益は20年間の 平均値)
近鉄志摩スペイン村 ソーラー発電所 (三重県志摩市)	2,500kW	平成25年 9月23日	
近鉄花吉野 ソーラー発電所 (奈良県大淀町)	4,200kW	平成26年 3月(予定)	
近鉄大分高江 ソーラー発電所 (大分県大分市)	2,200kW	平成26年 3月(予定)	

※発電容量は、太陽光パネル容量

◆事業スキーム

当社は発電事業者として電力会社に電気を供給。発電設備はメンテナンス業務などを委託する企業が保有し、当社は発電量に応じたサービス料を支払う方式。



近鉄志摩スペイン村ソーラー発電所

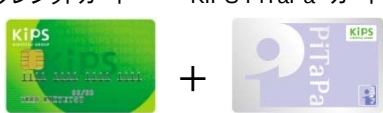
◆太陽光発電を活用した取り組み

奈良県・大淀町らと「花吉野ガーデンヒルズ」における再生可能エネルギー高度活用検討会」を設立。当地区をモデル地区とし、太陽光発電所・EVやスマートハウス等を活用した災害時の電力供給などのモデル事業を実施し、地域活性化につなげる。

さらなる成長のための取り組み② KIPSカードの一層の強化

購買情報を共有・分析し、グループ全体でCRM戦略を推進する。
ICOCA一体型カードによる鉄道会社ならではの高い利便性を提供する。

<KIPSカードの種類>

		クレジットあり	クレジットなし
特徴		与信が必要	誰でも持てる
交通乗車機能	あり	クレジットカード KIPS PiTaPa カード  「KIPSクレジットカード+KIPS PiTaPaカード」	表 裏  (定期券付の場合) 「KIPS ICOCAカード」
	なし	 「KIPSクレジットカード」	 「KIPSポイントカード」
ポイント付与		クレジット決済または現金決済	現金決済

2011年11月

目標 200万人

「KIPSクレジットカード」による近鉄グループ共通ポイントサービス開始

2012年12月／2013年1月

「KIPS ICOCAカード」発行開始 交通IC機能付

「KIPSポイントカード」発行開始 与信不要

2013年11月～2014年11月

「KIPSクレジットカード」による観光特急「しまかぜ」デザインを発行
期間限定(約1年間) ※一部提携カードでの発行



<KIPSカードの今後の展開>

1

KIPSポイントを活用した販売促進
⇒ ポイントの利用(交換)促進キャンペーン
や商品強化による売上拡大

2

顧客満足度の向上
⇒ 購買情報の一元管理による分析強化と、
需要に合った商品の情報提供

3

KIPSポイント加盟店および
サービスの拡大
⇒ グループ参加会社・施設の拡大、
他のポイントサービスおよび会員組織
との連携強化

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。



お問合せ先

経理部

Tel:06-6775-3465

Fax:06-6775-3691

Mail:ir-info@rw.kintetsu.co.jp